

附属施設

教育学部附属教職支援開発センター

所在地 高松市幸町1番1号

TEL：(087) 832-1683

本センターは、実践的指導力の向上及び教職支援体制の充実のため、学部と附属学校園、さらには香川県教育委員会等と連携・協働して、実地教育、教職支援、教員研修、教育開発／ICT活用及び特別支援教育の推進的役割を果たすことを目的にして設置されています。

業務として、①教育実習を中心とした1年次から4年次までの4か年を見通した実地教育の推進、②教職志望学生への支援（日常の支援・教員採用試験への支援・相談活動等）及び現職教員への支援（相談活動等）などの教職支援の推進、③研究交流会・講演会の開催など教員研修の推進、④附属学校園や県市教育関係機関との連携・協働による教育開発／ICT活用に関する推進、⑤特別支援教室「すばる」での特別な支援を必要としている子どもたちへの指導や教育相談など特別支援教育の推進を行っています。

本センターでは、教育関係図書や教科書・指導書等を備えており、学生のみならずも閲覧することができます。また、指導教員を通してビデオカメラやデジタル教科書等の情報関連機器の貸し出しも行っています。



附属教職支援開発センター

教育学部附属学校園

1 附属高松小学校

所在地 高松市番町5丁目1番55号

TEL : (087) 861-7108

本校は、学校教育法に基づく小学校教育を行うほか、教育の実践的研究や教育実習を実施するなどの使命を担って設置されています。毎年2月上旬には、県内外から多くの参会者を迎え初等教育研究発表会を開催し、研究の成果を報告したり授業を公開し研究協議を行ったりしています。

令和4年度より、文部科学省の研究開発学校の指定を受け、個の生活知を豊かにする新領域「経験」と、体験を価値の創造につなぐ「じぶん」の時間を創設し、経験から新たな知や価値をつくるカリキュラム開発に取り組んでいます。また、隣接する園舎と幼小連携の研究も行っています。

2 附属坂出小学校

所在地 坂出市文京町2丁目4番2号

TEL : (0877) 46-2692

本校は、大正2年4月に香川県女子師範学校の代用附属校として開校しました。創立以来、県下の小学校教育の中心となって研究や実践を積んできています。1月には隔年で教育研究発表会を開催し、県内外から多数の参会者を迎え、研究成果を公開しています。

実践的指導力をもった教員養成をねらい教育実習生の指導に取り組むとともに、幼・中・特支との連携した指導、「学習意欲」「非認知能力」の育成、坂出高校教育創造コースとの連携を通して、目指す児童像「学びをつくる子ども」の育成に精力を傾けています。

3 附属高松中学校

所在地 高松市鹿角町394番地

TEL : (087) 886-2121

本校は、生徒の全人的な発達発育を期して中学校教育を行うとともに、実証的・実践的教育研究と教育実習の2つの機能を果たすことを目的としています。教育研究では長年カリキュラムを研究の柱に据えて研究・実践に取り組んできました。現在は、文部科学省研究開発学校指定(令和5～8年)を受け、研究主題を「自らを高め続け、新たな時代に向けて責任をもち行動する人間の育成」とし、知性と省察性を育むために新領域「MIRAI」を創設し、新しい教育課程の構築を目指して研究を進めています。教育実習では実践的指導力をもった教員の養成を目指し、基本的な知識・技能を身に付けるとともに、学校における課題に主体的に取り組むことのできる資質・能力を培うために丁寧な指導を行っています。

4 附属坂出中学校

所在地 坂出市青葉町1番7号

TEL：(0877) 46-2695

本校は創立以来、教育実践研究に熱心に取り組み、多くの先導的な研究の成果をあげてきています。なかでも、昭和54年に文部省（当時）の研究開発学校に指定されて以来、生涯学習の視点に立ち、「モジュール学習」を基盤としたカリキュラムの開発を推進したことは、日本の教育界全般の知るところです。現在は、社会構成主義に基づく「ものがたり」の視点からのカリキュラムや授業の開発を行っています。平成30年度から文部科学省の研究開発学校の指定（4年間）を受け、「探究」をテーマにした研究を進め、高い評価を受けています。

5 附属特別支援学校

所在地 坂出市府中町889番地

TEL：(0877) 48-2694

本校は、香川県の中心坂出市府中町に位置し、小学部・中学部・高等部からなる特別支援学校です。昭和40年に附属坂出小学校に特殊学級「南組」として創設。知的障害養護学校として昭和50年に発足し、現在地に移転しました。校訓である「自立」を目指し、個々の障害特性に応じた指導法の研究開発と、指導実践、また、障害のある子どもへの指導に携わることになる教育実習生への指導を核に教育活動を推進しています。また、就業前の支援である「やまもも教室」や公立学校への連携訪問を行うなど、地域におけるセンター的役割を担っています。

6 附属幼稚園

所在地 坂出市文京町1丁目9番4号

TEL：(0877) 46-2694

本園は坂出市文京町に位置する3・4・5歳児3学級の幼稚園です。昭和8年4月に、香川県女子師範学校に併設された附属幼稚園として開園しました。創立以来、先導的な研究に取り組み、その成果を公開研究会や紀要等で発表しています。実践的指導力をもった幼稚園教員養成をねらい、教育実習生の指導に取り組むとともに、「自ら環境に働きかけ、意欲的に遊びに取り組み、自分らしく伸びていく子ども」の育成を目指して教育を行っています。

7 附属幼稚園高松園舎

所在地 高松市番町5丁目1番55号

TEL：(087) 861-2393

本園は4・5歳児2学級の幼稚園です。教育の実践的研究や教育実習を実施するなどの使命を担って設置されています。隔年で2月上旬には、多くの参会者を迎え研究発表会を開催し、保育の公開や研究成果の発表、研究協議をもつなどしています。また、「遊び」を通した「学び」の様相を追及したり、幼小連携の一環として園児と小学校1年生の児童と一緒に活動する機会を設けたりするなど、日々の保育実践を基盤として教育の実践的研究を進めています。

医学部附属病院

所在地 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1

TEL : (087) 898-5111(代表)

香川大学医学部附属病院は、昭和58年10月に香川県民の大きな期待のもとに“香川医科大学医学部附属病院”の名称で開院して以来、香川県の中核医療機関として先進的な移植医療や医療ITの活用などを積極的に推進して来ました。平成15年10月に香川大学と統合して現在の名称となり、平成25年に30周年を迎えました。開院以来の基本理念“患者さんの権利を尊重し、良質な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し医療の発展に寄与する。”を継承するとともに、新たに“ささえ、つなげる、リードする”とのキャッチフレーズを掲げました。これは、「患者さんや地域医療をささえ、大きな志と使命感を持つ医療スタッフが地域、国内そして世界の医療機関とつながるとともに、大学病院として医療をリードしていきたい」との思いを込めたものです。

本院は、病床数613床、32診療科、4中央診療施設、薬剤部、看護部その他特殊診療施設、及び卒後臨床研修センターなどを有する香川県唯一の「特定機能病院」、「大学病院」です。救命救急センター、総合周産期母子医療センター、がんセンターなどを配備するとともに、香川県災害拠点（地域災害医療センター）、県がん診療連携拠点、がんゲノム医療拠点、県エイズ治療拠点、県肝疾患診療連携拠点、県難病診療連携拠点、認知症疾患医療センターなどの指定を受けて病院機能強化を進めてきました。本院で構築した情報基盤「かがわ遠隔医療ネットワーク（K-MIX）システム」は、教科書に掲載されるなど国内外から新しい医療システムとして注目されており、また高度な医療技術を活かすべく糖尿病克服プロジェクト「チーム香川」の運用をはじめ、各種疾患の地域連携パスを作成し、地域医療連携ネットワークを充実させつつあります。

また、本学医学部学生の医療実習に力を入れるため地域医療教育支援センターを設立し、卒後臨床研修センターによる研修医指導を一層充実させ、さらに専門医育成へとシームレスな臨床教育システムを構築しています。ほかに救急救命士の養成研修、看護学校、薬学部学生の実習なども県内外から積極的に受入れており、教育機関としても高い評価を得ています。さらに、国際医療標準の認定取得を視野に入れ、リサーチマインドをもった国際的医療人の育成にも積極的に取り組んでいます。

平成23年度から行われている病院再開発が平成30年度で終了しました。新しい病棟、新しい手術棟（ロボット手術室、血管造影ハイブリッド手術室、MRIナビゲーション手術室を備えています）、新しい外来、新しい中央診療棟。すべてが新しくなった香川大学医学部附属病院が最新の医療を安全・安心に県民に提供します。



医学部附属病院

創造工学部ものづくり工房

所在地 高松市林町2217番地20

TEL：(087) 864-2023

ものづくり工房は、技術者の育成を主眼とし、『ものづくり』に関わる実践的な教育や先端的な研究を行うことを目的として、林町キャンパス内に設置されています。施設内には、教育・研究用として、機械・材料工房、デジタル工房、デバイス・材料工房と先端的な研究を行うための工房（RP室、回路製作室、MBE室）があります。また、創造工学部設置に伴い、2018年からは、幸町キャンパス（研究交流棟）内に分室を設置しています。幸町分室には、教育・研究用として、木工室、デジタル造形室、塗装室があります。主に創造工学部所属の学生が授業や卒業研究、サークル活動などで使用しています。その他、外部機関との共同研究や、小・中・高校生および一般の方を対象とした、体験教室の開催などにも活用されています。



創造工学部ものづくり工房

農学部附属農場

所在地 さぬき市昭和字谷乙300番地2

TEL：(0879) 52-2763

附属農場は、農学部から約6km離れたさぬき市昭和の北西部にあり標高100mの山の中腹部に位置する、面積約17万㎡の傾斜地農場です。

農学部における専門教育の一環を担う当農場は、農業生産に関する研究と実習教育に適した最良の場です。当農場では、学部での講義等から得た知識と理論に基づき、米麦、果樹、野菜、花卉の栽培、家畜の飼養、農業機械の操作等について、実習教育を行っています。この実践教育を通じて本来の農業技術を体得し、農学に関する理解と関心を深め、総合的に農業を把握することを目指しています。

また、当農場では、農作業の効率化、作物栽培、家畜の飼養、園芸作物の栽培・繁殖・育種等に関する研究が行われ、その成果が、実習教育に反映されています。



附属農場全景

瀬戸内圏研究センター庵治マリステーション

所在地 高松市庵治町鎌野4511番地15

TEL : (087) 871-3001

この施設は、四国の最北端の庵治半島先端に位置し、周辺には自然の砂浜や岩場があり自然環境にも恵まれており、本学における海に関する教育研究の前線基地となっています。そのために、調査艇“カラヌスⅢ”（19t）及び小型作業船“ノープリウスⅡ”（1.1t）が配備されています。また研究用機器として、各種海洋観測機器及び栄養塩、全窒素・リンなどの自動分析装置が備えられています。

同施設では、海の富栄養化、貧酸素水塊、養殖漁場環境、あるいは干潟域の環境等について研究を行っています。教員、学生は調査艇に乗船して海洋観測に出かけ、施設の各種分析機器を利用しています。また、創造工学部、農学部の臨海実験実習にも活用されています。



庵治マリステーションとカラヌスⅢ

博物館

所在地 高松市幸町1番1号

TEL : (087) 832-1300

博物館は、香川大学の教育・研究で蓄積された貴重な標本・資料・発明品などを収集・保管し、学内外に広く公開することを目的として、平成20年4月、幸町北1号館1階に開館しました。

岩石鉱物や動植物などの自然史標本、希少糖とその製造装置などの技術史資料の常設展示のほか、企画展を年に2回開催し、さらに特別展も開催しています。授業や実験・実習などでの利用以外にも、小・中・高校生や一般市民を対象にしたミュージアム・レクチャーや体験教室を開催するなど地域に開かれた場として活用されています。

開館は、火曜日から土曜日（祝休日、展示替え等の期間を除く）の午前10時から午後4時です。開館日・時間、展示内容などの最新情報についてはウェブサイトをご覧ください。

<http://www.museum.kagawa-u.ac.jp/>



博物館



展示室

イノベーションデザイン研究所

所在地 香川県高松市番町4丁目8-27

イノベーションデザイン研究所は、平成30年10月に「組織」対「組織」の研究連携を一体的にマネジメントするオープンイノベーションのプラットフォームとして設置されました。分野横断的な研究チーム編成と、プロジェクトマネージャーによる進捗管理で、共同研究を強力に推進し、未来を拓く人と技術の創生を目指しています。

令和4年4月、本研究所の活動拠点を構築し、地域・産業界の取組と大学のアイデアを融合する共創環境の形成を促進するため、幸町キャンパスから徒歩1分の香川大学職員宿舎の跡地を利用した新棟を開所しました。イノベーションとは、異なった資質や背景を有する人々が出会い、「人と人をつなぐこと」から始まるとの考えのもと、様々な障壁を越えて、情報を共有し合い、触発される環境を築くことが望ましく、そのためには企業の試験的な取り組みと大学のこれまで培った知見を組み合わせることが必要です。技術に支えられた理想的な共創環境構築のため、本施設は、人と人をつなぐ場であり、産官学連携推進のハブ機能を備えた共創環境スペースとしての役割を担います。

建物のエントランスにデザインされている本研究所のロゴは、KIDIの文字をモチーフにして、香川から新しいアイデアや価値を発信することをコンセプトに、本学創造工学部造形メディアデザインコースの学生がデザインしました。瀬戸内海をイメージした水色の円は、知識のつながりや世界へ発信していくことを表現しています。



イノベーションデザイン研究所